

税金で恩返し

佐野市立常盤中学校3年 亀山 さくら

「税金」と聞くと、どんなことを思い浮かべますか。近年は消費税額の引き上げがあり、買い物とする度に「何だか損した気分だ。」と感じ、税金に対してマイナスなイメージを持つ方もいるでしょう。私もその一人でした。あの出来事が起こるまでは。

二〇一九年秋のことです。私が住む地域は台風十九号により被害を受けました。連日の豪雨で勢いを増した濁流が道路を破壊し氾濫。当時通っていた小学校にも押し寄せたのです。学校は休業をよぎなくされ、私は友人に会うこともできず、変わり果ててしまった風景を目のあたりにして絶望感でいっぱいでした。

そんなとき、母から小学校と道路の復旧工事が始まったと知らされました。私はとても驚きました。被災してからこんなにも早く工事が始まるとは思わなかったのです。工事は着々と進み、完全に復旧された訳ではありませんでしたが、休業は二週間ほどで終わり、学校に行けるようになりました。休業明けの朝会で、校長先生が、

「この工事には、佐野市の税金が使われています。工事をしてくださった方々にはもちろん、税金にも感謝して生活しましょう。」

とおっしゃいました。私はこの話を聞いて、とても凄いことだと感動しました。調べてみると、今回のような工事には、公共事業関係費の中の道路整備事業費と、学校施設環境改善交付金などが使われているそうですが、それだけでなく、学校や交番、下水道整備などに使われている税金にも、もしかしたら自分が納めた税金が含まれているかもしれない、そう思ったのです。自分が納めたたったの一円や五円が、日本全国の人々が納めた税金と合わさって日本の地域社会を支えていると思うと、人と人とのつながりを感じて、とても嬉しい気持ちになります。

税金は、いわば水のようなものだと私は思います。水は、雨や雪として地上に降り、川となって海へ注ぎ、水蒸気に姿を変えて空へ戻りまた地上へ降るという循環の中で、地球を巡り動植物や私たち人間に様々な恵みをもたらします。人間にとって水は、飲まなければ三日で死んでしまうと言われるほど生存に不可欠なものです。税金は、そんな水と同様に、社会を巡る中で教育や公共サービスなどの多様な面から私たち国民を支援してくれているのです。税金とは、豊かな社会を築く上で必要不可欠なものです。

私の地域は、多くの人々と税金に救われました。一人ひとりが納めた税金が、誰かを救うことがあります。また、今の生活や社会は、税金がなければ成立していないでしょう。税金を納めることと、税金の恩恵を受けることは一体です。私は、税金の大切さやありがたみを理解し、税金をきちんと納めることで、助けてくれた人々や税金に恩返しをしていきたいです。